

職場で回覧して下さい。

千葉県職労情報 第334号

2006年10月4日 千葉県職員労働組合

TEL 043-223-4608 FAX 043-224-5475

Eメール:honbu@chibakensyoku.jp

ホームページ URL <http://www.chibakensyoku.jp/>

一人で悩ん

でいないで、

県職労に相談

してください

10月の給料が危ない

= 財団は楽団員の生活・雇用を守れ =

10月2日、ニューフィル千葉支部と県職労本部は、財団法人ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉（以下「ニューフィル千葉財団」）と交渉しました。

内容は、①9/29付け千葉日報記事について、「ニューフィル解散危機」と報じられたことをどうとらえているか。②来年度「歩合制への移行」とあるが、労組として反対である。③「財政悪化」の原因と責任はどこにあるか。④人件費の削減でオーケストラは存続し、充実するのか。⑤雇用形態の見直しは、県の指示か。⑥賞与カットなどの大幅賃金カットを、使用者責任として職員の生活をどう責任を考えているのか。など。

この交渉には、県職労から斎藤副委員長、山下中央執行委員、室谷特別中央執行委員が、ニューフィル千葉支部から大森支部長外3名が出席。ニューフィル千葉財団から常務外4名が出席。

また、10月3日、県職労本部は、千葉日報の記事を巡って文化振興課長に説明を求めました。

県職労・ニューフィル千葉支部	ニューフィル千葉財団
9/29付け千葉日報記事についての確認したい。	財団に取材には来ていない。影響はあると思う。 存続を第一に考え県の支援を得たい。そのため楽員に協力(人件費削減等)を願いたい。
人件費の削減をしたとき具体的な存続の見直しはあるのか。	出来高払いにすればなんとかなる。現状の給与体系を守るのであれば大幅な給与カットしかない。
今回の危機を招いたのは何に責任があるのか。楽員の責任か。	県の支援、世の中の動向、経営の問題、事業日数の乖離
県の文化政策に対する問題ではないのか。	回答なし。 コンサートマスターに対し賃金カットをしたい。 11月中旬に理事会予定。

県はニューフィル存続に責任を果たせ

＝千葉日報記事「ニューフィル解散危機」に対する文化振興課の説明＝

県職労 斎藤副委員長、山下中央執行委員

県文化振興課 小倉文化振興課長、 藤崎文化振興室長

県職労	文化振興課長
<p>千葉日報記事についての認識は</p> <p>すでに、資金ショート問題が起きている。</p> <p>給料の支給にもかかわる。県の支援がなければ立ちゆかない状況だ。</p> <p>「自立型経営」と言ってるが、そもそも15人のメンバーでエキストラを頼んでいる状態でやってきて自立型といわれても、無理な話ではないか。</p> <p>「営業努力」を取り仕切る担当が、2年交替の派遣では根付かない。プロが必要ではないか。</p>	<p>努力して改革をすすめプランを出せと言ってきた。いいプランをお願いしているそれを見ただけのことはしたい。今一番大事な事は、いい改革をたててそれをもとに頑張れること期待している。新しい力強いニューフィルを目指し願っている。</p> <p>努力して改革してそうならないよう進める。</p> <p>改革プランをたてている。プランがないと新たなニューフィルとしてやっていけない。支援を決定できない。過程であり、そう理解している。</p> <p>銀行とかそれを使って説明をしなければいけない。(藤崎室長)</p> <p>お金だけの問題でない同時にそうなってきたニューフィルの中の新しい時代に生きていくオーケストラを作るべき、基本的には、いいプランを作ってもらいたい。</p> <p>自立でなく自立型。楽団小さいも大きいもある常勤楽団を持たないところもある。今日 こうなった理由は、事業がのびていない、依頼公演が激変している。また、ニューフィル千葉の名前を売る営業努力も必要だ。</p> <p>これから考えて行かなければいけない。プロのアドバイスをもらうとか常勤でなくともやり方はあると思う。</p>

ニューフィル千葉 定期会員大募集

特典 ●主催講演会のS席引換券(3枚)を発行(指定席/4,000円×3枚=12,000円)
 ●「楽団員との交流会」への参加。 ●「友の会ニュース」をお送りします。
 ●CDプレゼント ●友の会会員証を発行(ご入会から1年間有効)

申し込み 県職労本部 山下 会費10,000円

ニューフィル解散危機

今年度、債務超過の恐れ

県議会代表質問

九月定例県議会は二十八日、質問戦に入り、代表質問に、自民党の田口賢(船橋市)、民主党の田中明(同)の両議員が登壇した。田口議員は再提出された障害者条例案について、県による「訴訟の援助」を定めた第二十六条などの削除の考えを質問したが、堂本暁子知事は「慎重な運用を図る」などと述べ、理解を求めた。また、田中議員が県の外郭団体「財団法人ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉」の経営悪化問題を取り上げ、県が楽団員の給与・雇用体系など経営の抜本的な見直しを財団に求めていることが明らかになった。

障害者 訴訟援助は慎重運用 条例案

今議会最大の焦点とも正案について、田口議員「一方、「混乱や対立」を醸成する恐れがある」として、第二十六条などを削除する意思がないか尋ねた。

は「経済的に提訴できない人を支援する。同様な制度は消費者保護条例にもある」などと必要性を主張。援助を決定する際には専門家らが加わることを説明し、「慎重な運用を図る」と理解を求めた。

対。行政の民事介入は容認できない」とし、第二十六条などを削除する意思がないか尋ねた。これに対し、堂本知事は「抜本的な経営体質の改革を行い、自立型経営へ

の転換」を財団に求め、が、赤字体質から脱却で改革の成り行きを見て支きず、今年度末の累積債務を検討するとした。務は八千万円を超す見込。県文化振興課による。み。と、財団は一九八五年にニューフィル千葉の年間公演回数は最盛期の二百二十一回から今年度百四十四回に激減している。収入の三分の一を百四十四回から今年度百四十四回に激減している。県が補助(二〇〇五年度は約九千万円)しているほか、年功序列型の給与

体系も影響。財団では人件費圧縮に向け、給与歩合制への移行や就業規定の見直しについて組合交渉を進めている。同課は「このままでは解散ということになってしまふ。まずは改革を求めていく」としている。大槻幸一郎副知事の任期途中の辞職については両議員ともに説明不足とたたかれたが、堂本知事は「一身上の都合。辞職の意志が固く、残念だが、受け入れた」などとこれまごの説明を繰り返すにやめた。

田中議員は、ニューフィル千葉の経営悪化を指摘。「十一月の給与を支払った財団は、バンクするという話を聞いた」とし、県に緊急支援を求めた。白戸章雄副知事は、今年度は債務超過になる恐れがあるとしたうえで、「抜本的な経営体質の改革を行い、自立型経営へ